

DHC-6 の思い出 その2 フェリーフライト

荒岡 衛

航空雑誌に記事を書いている友人からエアー北海道の DHC-6 のフェリーフライト*に乗らないかという情報が入ったのは 2005 年 11 月の初めだった。これは丘珠をベースとして運用されている機体が大阪の全日空整備工場で整備を受けた後、函館に戻る際に無料で乗せてもらえるというものだった。航続距離の関係でダイレクトには飛べないので伊丹出発後、新潟で給油、そして函館に行く。ちなみにその友人は整備のために伊丹に向かった時に同乗取材していた。

フェリーに乗れるチャンスは滅多にないことなので休暇を取ってでも乗ろうと思った。気懸りだったのは整備の進み具合で日程が直前まで不確定なこと。やはり当初 11 月 26 日(土)の予定が一日遅れの日曜日になった。

伊丹発 10 時なので 2 時間前の午前 8 時に伊丹の全日空整備工場に行く必要があった。前泊したかったけれど、空港近くのホテルが満室だったので羽田 6:30 発の JL 便に乗るために家を出たのは 4:30 だった。

最後の定期整備ということで出発前には簡単なセレモニーが行われた。天候の影響で経路地は仙台に変更されていた。このフライトに搭乗したのはパイロット 2 名の他、エアー北海道社長、社員 2 名、便乗の航空ファン 2 名計 7 名だった。座席はもちろん自由、巡行高度 13000ft に上がってからは機内を自由に歩き、パイロットとも話ができた。社長は窓ガラスをはずして写真を撮っていいと言ってくれた。ルートは通常とは異なりまず東京へ向かい、吉祥寺上空で進路を北に変え仙台に向かった。仙台には 12:50 に着陸、給油中に社長が弁当を買ってきて全員に振舞った。13:45 に再び出発、函館には 15:30 に到着した。

その後格納庫で写真を撮って、函館発 19:40 の JL 便で戻ったので帰宅は 22:10 という強行軍だった。もう一人の航空ファンは大阪在住なので大阪行きに乗った。

なおフェリーフライトは無料だけど、その前後は自己負担である。

*フェリーフライト: 通常は有償で乗客、貨物等を載せる航空機が回送のために載せないで飛ぶフライトのこと。新造機をメーカー工場から客先空港まで運んだり、整備のために移動させたりするフライトのこと。運用のために羽田に着陸した機体を成田に移動させる場合もある。

